

日本大学芸術学部



校友会報

平成29年10月発行
2017年秋季号

99

C O N T E N T S

新学部長・新校友会会長・前学部長鼎談……………	3
第11回日藝賞記念講演	
小山 薫堂……………	6
三宅 由佳莉……………	7
新役員紹介……………	8
平成29年度校友会総会……………	9
皆さん今日は！……………	10
福岡江古田会総会とアート展同時開催 / 石川江古田会…	12
宮城江古田会総会 / ふくしま江古田会総会 開催…	13

第18回宮崎江古田会総会開催 / 山形江古田会総会…	14
第五回岡山江古田会作品展……………	15
野田学部長退任記念・32回目の熊本江古田会総会 /	
新潟江古田会平成29年度総会……………	16
平成29年度佐賀江古田会総会 / 北海道江古田会総会…	17
長野江古田会……………	18
江古田会各支部連絡表……………	18
学科ニュース……………	19
編集後記……………	23



日芸祭

江古田校舎

THE ART FESTIVAL

2017 [平成29年]
11/3 金 4 土 5 日

校友会コーナー（お休み処）を設けております。どうぞ新しくなった江古田校舎にいらして、校友会コーナーにお立ち寄りください。

新学部長 × 新校友会会長 × 前学部長

今年9月24日で退任された野田学部長からの提案で
新学部長・新校友会会長・前学部長3人の鼎談が実現しました。

野田：僕は9月24日で任期満了となります。12年間こまでやってこられたのは、学部教職員の方々、執行部の仲間達の強い支えがあってこそ。さらに校友会、後援会の皆様のご理解、ご協力があったからこそと感謝しております。僕の学部長就任時の公約の一つが校友・校友会との連携でした。その成果が日藝賞の創設と校友会地方支部との活発な交流となったものと満足しています。日藝賞は日芸を卒業した沢山の色々な分野で活躍されている方々と学部を繋げるための激励の賞を作ろう、と思いついたことに始まります。受賞者の方々がまた日芸に戻ってきて、教育や運営に貢献して下さいましたし、それが学部と校友が繋が

る一つの手段だと思ったからです。もう一つの地方支部との交流については、受験生の地方の開拓に地方の校友会が協力して下さいるのが一番良いと思い、できるだけ地方の江古田会に出向いて皆さんとコミュニケーションを取って理解を深めることに努力しました。少しずつ効果が現れてきています。江古田会への参加は次期学部長にもできるだけ継続して欲しいと願っています。

校友会会長も新しくなりました。綾部前会長も僕の思いに賛同してくれて、できるだけ江古田会に行って下さいました。予算上毎回行くのが難しくなってきたという話はお聞きしますが、できるだけ学部長と一緒に行って欲しいというのは僕の願いです。

地方の江古田会は、高齢化して若い人たちの会員が少なくなっている支部もありますが、みんなで考えてバックアップしてあげれば、全国にある日芸の校友会がもっと活性化するのではないかと思います。ぜひ次の新学部長、新校友会会長が突破口を作って校友会と芸術学部の発展に貢献してくれれば嬉しいです。

新しい学部長であるデザイン学科の木村教授は私の12年間の学部長任期期間中、執行部で最終的には学部次長という形で貢献してくださった方です。12年間一緒にいたので、僕の良い所も悪い所も分かっていると

はと思いますが、気にすることなく新しい木村カラーで頑張ってくださいと思っています。

そして、新校友会会長の田上さんは、放送学科の後輩でもあり、運動部の後輩でもあり、イベント業界で活躍されている方でもあるので、僕の昔からよく知っている人です。見た目はちょっと怖そうですが実は非常に細やかで配慮の行き届いた優しい人です。まずは校友会の会長として皆さんに認めてもらえるように謙虚に努力してほしいと思います。その上で、綾部カラーの良いところは受け継ぎつつ、田上カラーを徐々に出して頂ければうまく行くのではと思います。

ここで、新学部長と新校友会会長に抱負を一言ずつ述べて頂こうと思います。

まず、校友会報なので田上新会長から抱負を述べて頂けますか。

田上：野田学部長の強いリーダーシップによる12年間、本当にお疲れ様でございました。私が校友会の常任幹事会に入ったのは3年前からですが、非常にまとまりがよく、絆も強く、特に地方の江古田会の方々の積極的な姿勢に感銘を受けておりました。会長に就任してまだ1ヶ月しか経っておりません。まだまだ新米で校友会に対しての経験は非常に浅い中で、綾部前会長からバトンタッ



野田慶人前学部長

ちされて、さてどうしようか、と模索している状況です。

抱負としましては3つあります。

1つ目は、綾部前会長からバトンタッチされた様々な施策を踏襲していきたいと思っています。主な施策は新年会と総会、芸術祭での校友会のお休み処の出店です。そして、地方の江古田会を大切にすることと、本部との関係づくりを継承していきたいと思っています。

私の任期は3年間続くわけですが、3月の時点で今年度の予算が決まりましたので、今年1年間は木村新学部長、校友会副会長である高橋先生、そして様々な学科の先生方とよく相談して次年度に向けて具体的な施策を決めていきたいと思っています。

2つ目は学生に対する予算を増やしたいことです。校友会は約1800万円という限られた予算の中で1年間運営していかなければなりません。配分を見ますと、一番足りないのは学生に対する予算なのです。学校を窓口には校友会が学生とコミュニケーションを図るためには、プレゼンスを高めることが大切です。校友会の存在を将来の校友会員である学生たちに、学生の時から校友会の活動を



田上峻詞新校友会会長

知って欲しいと思っています。

3つ目はホームカミングデーについてです。ホームカミングデーを毎年実施している学科もありますが、校友会として何か協力できないかな、と考えています。全国から日芸ファン、日芸信者、OBの方々が母校に帰れるような機会を作ればと思っています。何はともあれ、今年1年間は綾部前会長の残された財産を確実に継承する。次に木村新学部長あるいは高橋校友会副会長も含め学科の先生方と話し合いながら学校を窓口として校友会が協力できればいいかなと思っています。

野田：次は、新学部長の木村先生お願いします。

木村：9月25日から野田学部長からバトンを渡されることになったわけですが、12年間野田学部長と執行部として一緒にさせていただいた中で、先ほどの野田学部長の話の中に、校友会との繋がりをとても大事にされ、絆を強く保つことを努力されていたと仰っていました。僕も代理で江古田会にずいぶん行かせて頂いたのですが、江古田会の会員の皆さんから学生だった頃の強烈な印象の残った思い出話をたくさん聞かせて頂きました。また、今の日芸の話をさせて頂いたときに、校友会の方々にはとても興味を持ってくださり、どんな学生がいるのかとか、日芸はどんな風になろうとしているのかということに興味を持って聞いてくださる。その過去と未来、現在のことを聞かされたときに、僕自身が非常に励みになったし、これからの日芸のイメージが僕の頭の中に湧いてきたのです。これは絶対に引き継いでいなくてはと思いました。全国の江古田会や海外の江古田会の方々と絆



木村政司新学部長

をより強くし、卒業生である江古田会の方々が今何を考え、何を思っているのかということを、今の日芸の学生たちや教職員たちに伝えることも大事なのだと思います。

校友の皆さんに恥じない学部でありたい、プライドを持てるような学部でありたいです。私も芸術学部出身なので、思いは同じだと思います。野田学部長から引き継がれるバトンは重たいです。重いバトンを落とさないように引き継ぎつつ、自分なりの新しい芸術学部をつくり、伝統も守り、日芸らしさというものを追求していきたいと強く思っています。

野田：通年化も2019年から始まりますし、2021年は100周年です。19年の通年化を具体化するのには木村先生です。100周年のときはどなたが学部長かまだ分かりませんが、今の時点で100周年に向けても考える必要があったので足がかりだけは僕が両方作ったつもりです。通年化に向けては教室棟を作ることにしました。100周年に向けて財政的に今までより厳しい中でどうやっていくかを考える必要があります。

校友会との協力ということで考えると、田上会長がおっしゃっていたホームカミングデーを100周年に合わせて開催するのもグッドアイデアだと思います。

木村：僕の3年間の新学部長の任期として最大の任務は、通年化と100周年に向けての計画です。野田先生が築いた礎をどう深化させるか、責任をととても強く感じています。

野田：あとは少子化の問題もあります。学生数が少なくなり、財源も少なくなっていく。さらに文部科学省の入学者数抑制策などの影響もある中、どうやって芸術学部らしさを出しながらバランスを取っていくか。一番厳しい時代になるかもしれません。新学部長は大変だと思います。校友会長にもぜひご理解、ご協力をしていただいて、学部と校友会が一緒になって厳しい状況の芸術学部を盛り上げていってほしいです。

田上：校友会は母校を愛している人たちが手弁当で運営している組織です。これからも愛している日芸をますます盛り上げていきたいと思っています。一つお願い事があります。校友会から学食を応援できればと思っています。衣食住のなかでも食は一番重要だと思うのです。学生たちへ校友会のプレゼンスを高める意味でも、ぜひ実行させていただきたいと思っています。

木村：これに関しては、アイデアがあります。多分、校友会に協力をお願いすることになるかと思います。これからも宜しく願いいたします。

田上：そういうお願いがあると、校友がまた一層まとまり、みんなが応

援すると思います。

木村：校友会の存在をもっと今の学生たちに広めましょう。例えば校友会スペシャルというようなメニューですね。そういう仕掛けを考えたいと思っています。

田上：ありがとうございます。ぜひ！

野田：それと校友会には就職活動にしても本格的なバックアップを考えて頂ければと思っています。学部には、就職指導委員会も就職指導課もあるけれど、それに相乗して校友会からも就職について協力して頂ければさらに就職にも強い日芸をアピールできます。学部長以下執行部の先生方や学科主任の先生方と校友会との交流がもう少し活発化し、親密になればうまくやっていけると思います。校友会には学科の役員もいることですし。

田上：校友会には職業人としてのキャリアを持った方がたくさんいらっしゃるのです、その方々を通じて積極的に応援できると思います。ぜ

ひ協力させて頂きたいと思います。

木村：まさにこちら側からも是非お願いしたいと思っていました。IターンUターンする学生が増えてきます。校友の中には会社を経営されている方やそのような方と繋がりがあつたくさんの方々がいらっしゃるかと思います。就職率を上げることに貢献していただきたいのをお願いします。

野田：引退したら相談には乗りますが、口出しはしないつもりです。お二人に新しい世代の日芸や日芸の校友会を作ってほしいと願っています。そこに忘れて欲しくないのが日芸らしさです。日芸の良い伝統、習慣、風土、そこは失くして欲しくないのです。日芸らしさが消えると校友会員は全員がっかりするでしょうから。いつでも、どこでも、いつまでもこれが日芸だ！という目印を残しておいて欲しい。これが僕の願いです。

木村：はい、日芸らしさを受け継ぎます。



写真撮影 高橋則英

第11回日藝賞記念講演

「究極の企画とは自分の人生を楽しくすること！」

小山 薫堂

6月7日、江古田校舎東棟EB-1教室で放送学科卒業の放送作家、小山薫堂氏の記念講演が開催された。たまたま日芸の放送学科に入学したという小山氏。学生時代に放送学科の先輩の紹介で文化放送のADのアルバイトを経験したことが放送作家の道への始まりだったと言う。放送作家は、世の中にある面白い情報を見つけて、それを分かりやすく噛み砕いて人々に伝えるという仕事。これを繰り返していくうちに、どうすれば人が喜び、興味を持ってくれて、自分の話を聞き、困っている人をアイデアによって助けることができるのか、ということが身についたそうだ。

また、小山氏の根本にあるのが「サプライズ」という言葉。良い意味で人をびっくりさせることが自分のクリエイティブの根本にあり、そのきっかけとなったのが放送学科の学生による新入生歓迎行事恒例の偽一(新入生の中に偽の1年生を紛れ込ませて騙すこと)によるサプライズの洗礼だったとのこと。

芸術やアート、エンターテインメントは見る人の視点や思いのスイッチを切り替えてあげることによって、その人の中に価値を生む。僕はこれが素晴らしいことだと思います。



そして、センスは知識と経験で作られる、と思っています。

センスを磨くために何が必要かという、好奇心。これが絶対に必要です。特に日芸は好奇心を培う場としては最高の環境にある大学ではないかと思います。好奇心の塊のような人が集まってきている。言い換えれば変な人なんですけど、変な人がいっぱい集まり、変な人と知り合う。僕の大学生活の初日、逆立ちをしてスケートボードに乗っている人と校門ですれ違ったときに、不安になりました。この大学で大丈夫なのだろうか、と。でも、そのくらい変てこりんな人がいっぱいいて、なかなか自分では思いつかないようなことを考えたり、その人たちと触れ合うことによって、自分の眠っている部分が刺激され、好奇心が大きくなるのだと思います。ですから、好奇心を持ち、好奇心のフィルターでいろんな世の中のものを見る、こうすると人生がもっと楽しくなると思います。

また、僕は企画とはサービスであり、サービスとは思いやりである、と思っています。誰かが何かを欲しがり、何かに困っている、それを解決するための知恵を出す。人々を幸せにしたときの手応えは本当になんとも言えない喜びや幸せに満ちているものです。

最後に究極の企画とは何か、と皆さんに問いかけたいと思います。究極の企画とは自分の人生を楽しくすることです。自分がつまらないと思っているのは、自分がつまらないと思うからつまらないのです。環境が変わらなくても自分の気持ち、あるいは閃き、視点を変えることによってその現場が楽しくなるかもしれない。そういう風に思えるようになったら、人生はきっと楽しくなると思います。ぜひこの日常を、この素晴らしい自由な大学時代を大切にしてほしいと思います。

今では放送作家だけでなく、会社の代表を始め、ホテルや航空会社などのアドバイザーやプロデューサーなど幅広く活躍される小山氏。

人生の記憶に残る無駄遣いの話や社員の誕生日に社員全員で企画して贈る壮大なサプライズプレゼントの話、お客としてホテルに宿泊して意見を言ったところ、そのホテルの顧問になった話、そしてくまモン誕生の話。盛りだくさんなエピソードの端々に小山氏のサプライズが織り込まれ、次はどんな話が出てきて、どんな展開になるのだろうか？とグイグイ話に引き込まれあつという間の90分間の講演となった。

「歌を架け橋にして希望を与えたい」

三宅 由佳莉

6月12日、江古田校舎の音楽ホールで音楽学科卒業の海上自衛隊音楽隊初のボーカリスト、三宅由佳莉氏の講演と演奏会が行われた。

前半は土野研治音楽学科主任の司会進行による三宅氏、渡辺馨名誉教授、三宅氏の部活の先輩である庶務課の長部純平氏との対談、後半は演奏会となった。

岡山県出身で岡山はれの国大使でもある三宅氏。

学生時代は日芸で初の女性名誉教授となった渡辺先生に師事した。

渡辺：三宅さんに初めて会ったのは受験講習会で、間違えな高校生という印象でした。私は彼女が空手部だったことを全く知らなくて、海上自衛隊に入隊する時に初めて空手部だったことを知りました。彼女は笑顔で怯むことなくレッスンを受けていたので、私も安心して厳しく教えました。音楽は基礎をよく叩き込むことが一番大事です。

三宅：渡辺先生のレッスンはとても厳しいですが、本番で怒られたことはありませんでした。先の可能性を見てくださる、とても信頼していた先生の一人です。落ち込んだり不安になった時、渡辺先生に支えて頂き本当に感謝しています。

土野：信頼がベースにあってこそその関係だったのですね。学生時代の空手部の三宅さんは如何でしたか？

長部：印象に残っているのが、部室で「馨先生が厳しい」と言っていたことです。苦しさはなく先生から可愛がられているのだな、と感じました。空手部の合宿で他の部員が疲れている中、三宅さんは笑顔で歌いながら歩いていました。自分の好きな事は苦にならず努力を続けた結果が今の彼女です。後輩ながら素晴らしいと思います。

三宅：空手は大学から始めました。空手の稽古は厳しかったのですが、そこで出会った仲間が今も応援してくれていて、非常に心強く感謝しています。

土野：では自衛隊に入った経緯を教えてください。

渡辺：海上自衛隊で声楽の隊員を募集していることを聞きました。自衛隊は訓練があるので耐えられるか心配でしたが、彼女なら大丈夫と思い推薦しました。海上自衛隊は歌う機会が多く、演奏しながら自分を訓練することができます。

三宅：先生から海上自衛隊、と伺って本当に驚きました。世界各地で演奏する中、一人で歌うという未知な部分に惹かれ海上自衛隊のボーカリストになろうと思いました。

土野：音楽隊の任務について教えてください。

三宅：海上自衛隊の任務は、隊員の士気高揚のための演奏がメインの活動です。また儀式、式典での演奏や、海上自衛隊の活動を国民の皆様理解して頂くための

広報演奏活動もあります。演奏活動が多いので、休日や、仕事が終わった後に個人の練習、平日に合奏の訓練をしています。東日本大震災の時、自衛隊が救援活動に向かう中、私は東京音楽隊にいて、やりきれない思いでしたが、慰問演奏で皆様笑顔で歌を聞いてくださり、改めて音楽の力を感じました。その後、「祈り」という親を失った子供達へのエールの曲ができました。メディアで取り上げて頂くようになった時、現場で辛い思いをしている隊員がたくさんいるので複雑な心境でしたが、私が歌い、自分たちのことを話してくれてとても嬉しい、と海上自衛官が言ってくださいました。私は三等海曹三宅由佳莉として海上自衛隊と国民の皆様の架け橋になるよう歌を歌っていこう、と誓っています。



講演会後半は演奏会で、以下の曲が歌われた。(ピアノ伴奏：あさみ まいさん)

- ・翼をください
 - ・夢破れて(レ・ミゼラブル)
 - ・祈り a prayer(海上自衛隊オリジナル)
 - ・君と共に旅立とう Time to say goodbye(オペラ座の怪人)
- アンコール
- ・日本大学校歌

透き通った歌声と凛とした美しい立ち姿、海上自衛隊音楽隊としての矜持、そして演奏会終了後、音楽ホール入り口で大勢の学生たちに囲まれて笑顔で応対されている姿がとても印象的でした。



新 役 員(平成29年度～平成31年度)

役員

- 名誉会長
木村 政司 (デ53)
- 顧問
佐々木照男 (写29)
久保 進 (演33)
八木 信忠 (映34)
一之瀬邦夫 (放36)
綾部東洋子 (演40)
野田 慶人 (放49)
- 会長
田上 竣詞 (放53)
- 副会長
高橋 則英 (写52)
佐々木善朗 (放53)
田中 光子 (写53)
- 監事
渡辺 圭一 (音51)
堤 さくら (放H6)
- 相談役
三浦清之助 (専24)
- 旧制
- 常任幹事
桜井理治夫 (専25)
- 写真学科
- 常任幹事
小泉 定弘 (41)
原 直久 (43)
●西垣仁美 (58)
丹羽 寿成 (58)
- 幹事
萩原 行子 (32)
南岡 秀男 (46)
小野寺榮一 (54)
鯉江 充 (54)
服部 一人 (58)
鈴木 隆史 (58)
大室 朋信 (H8)
田中 里実 (H16)
打林 俊 (H18)
- 映画学科
- 常任幹事
山田 顕喜 (38)

- 浦井 孝行 (45)
宮澤 誠一 (46)
山本 英史 (57)
●鳥山正晴 (59)
長部 純平 (H21)
- 幹事
村田 定之 (37)
阿部 靖男 (44)
中川 京子 (53)
廣瀬真奈実 (60)
千葉 実 (62)
川嶋 尚士 (H1)
齋藤 裕人 (H1)
奥野 邦利 (H4)
上倉 泉 (H5)
加藤 順子 (H6)

- 美術学科
- 常任幹事
高松 豊 (41)
小橋 克史 (H1)
●笹井祐子 (H1)
大橋 朋美 (H21)

- 幹事
根本 忠夫 (38)
岩野 弘之 (42)
濱口 泰己 (43)
五島三子男 (46)
勢ノ 修 (46)
有地 好登 (46)
大槻 孝之 (53)
福島 唯史 (63)
鞍掛 純一 (H1)
宮澤 真徳 (H16)
設楽 俊 (H18)

- 音楽学科
- 常任幹事
田口 順一 (33)
西尾 敦子 (H1)
●川上 央 (H7)
三戸 勇氣 (H11)
竹田 香子 (H18)
- 幹事
綿村 松輝 (38)

- 加藤 明 (45)
松井 保雄 (47)
今泉 久 (50)
清水 泰久 (55)
小川 哲夫 (55)
田代 幸弘 (56)
白井 隆子 (56)
田村 和夫 (59)
大内 国晴 (H2)
駒沢 大介 (H10)

- 文芸学科
- 常任幹事
生沼 剛 (41)
河野 直樹 (50)
大塚 実 (53)
●青木敬士 (H4)

- 幹事
小澤 英輔 (36)
戸田 勝男 (43)
鈴木 邦和 (46)
鈴木 正 (46)
武富佐知子 (50)
吉田 克也 (51)
上田 薫 (62)
谷村 順一 (H9)
上坪 裕介 (H16)

- 演劇学科
- 常任幹事
服部 晃一 (44)
向瀬 俊春 (48)
●原 一平 (48)
柴田真由美 (59)
- 幹事
杉野 一美 (38)
藤本 桂子 (60)
橋本 芳孝 (H1)
小林 直弥 (H3)
大槻 悟史 (H4)
深尾 明弘 (H5)
牧山佐知子 (H9)
山口 英峰 (H13)
木村光太郎 (H13)
杉山 陽洋 (H17)

- 阿部 健一 (H24)

- 放送学科
- 常任幹事
森澤 広明 (54)
松井 篤 (59)
安部 裕 (H2)
山根 宏之 (H5)
●茅原良平 (H13)
- 幹事
深井 徹 (37)
山口 康義 (40)
峰崎林二郎 (43)
清水 邦彦 (44)
間瀬 博美 (45)
橋本 孝良 (46)
小野 保視 (46)
森田 雅行 (50)
林 誠 (54)
金 龍郎 (59)
八巻 清 (60)

- デザイン学科
- 常任幹事
稲垣 進一 (35)
荒井 弘美 (50)
片岡 義和 (52)
千北 正 (52)
●長瀬浩明 (63)

- 幹事
中島安貴輝 (40)
桑原 淳司 (49)
肥田不二夫 (51)
佐藤 明彦 (51)
佐藤 徹 (H2)
大沼 敦 (H3)
笠井 則幸 (H7)
石田純之助 (H8)
布目 幹人 (H11)
高山 聡子 (H15)

●は学内責任者
()卒業年度



平成29年度校友会総会

平成 29 年度日本大学芸術学部校友会総会が7月1日（土）午後5時より E101 教室にて開催された。

総会は綾部会長の挨拶、続いて議長に小泉常任幹事（写 41 年度卒）、副議長に南岡幹事（写 46 年度卒）、書記に西垣常任幹事（写 58 年度卒）を選出、議事に入った。議長より会則 10 条により会は成立する旨の報告があった。

会務報告（川上常任幹事・総務）のあと決算報告（宮澤常任幹事・財務）、監査報告（箭内監事）、予算案審議（宮澤常任幹事・財務）へと進み、いずれも拍手をもって承認された。國分一彦氏の推薦による、上田輝仁氏の推薦校友会員の申請があることが小泉常任幹事より報告があり、原案通り拍手をもって承認された。また、緊急動議として会長選出について選挙を実施することが会員より提案されたが、賛成7名、反対多数で否決された。今年は役員改選の年となり、会則に基づき常任幹事会内で田上副会長を次期会長

に推薦することが報告され、拍手をもって承認された。

引き続き学生食堂にて懇親会に入った。

司会進行は原（一）常任幹事（演 48 年度卒）にお願いした。亀井俊一氏（演 36 年度卒）による高砂の一節の披露があり、干場文夫氏（音 49 年度卒）石川江古田会幹事による日大校歌斉唱。綾部前会長による新会長紹介、田上新会長の挨拶があり、ここで長年校友会に貢献してくださった綾部前会長、豊島前副会長、原（直）前副会長に学部長より花束が贈呈された。来賓祝辞として山本寛日本大学副学長、瀬川一之日本大学校友会本部長のご挨拶、野田学部長の挨拶があり、小野芸術学部事務局長による乾杯で懇親会が始まった。途中、推薦校友の上田輝仁氏の紹介があり、飛び入りでシャンソンや劇団員の挨拶などもあり大変盛り上がった。学内執行部、課長職以上の皆さんにも出席いただき、楽しいひと時を過ごした。

平成29年度（2017年度）予算

収入之部		
勘定項目	摘 要	金額（円）
本部よりの会費	4,000円×4,100人=16,400,000円	16,400,000
校友会幹事会費	5,000円×300人=1,500,000円	1,500,000
雑 収 入	総会懇親会会費・新年顔合わせ会費等	1,150,000
収入利息		20,000
合 計		19,070,000

支出之部		
勘定科目	摘 要	金額（円）
総 会 費	懇親会	260,000
諸会議費	常任幹事会・諸会議	230,000
消耗品費	ゴミ袋・洗剤・ガムテープ・コピー用紙・茶封筒 他	20,000
事務用品費	コピー機リースの使用料・プリンター・インク・コピー用紙 他	70,000
通 信 費	会報発送（在校生・卒業生）総会・会費請求切手他	5,450,000
補 助 費	学科同窓会・幹事会・総会・芸術祭・卒業生を送る会 支部補助（20支部×5万円）支部出席祝儀	1,620,000
寄付分担金	本部校友会分担金日本大学創立130周年記念事業募金 スポーツ振興会	450,000
印 刷 費	会報・総会・幹事会・終身登録費請求書 他	1,900,000
人 件 費	事務局員給料・アルバイト代・人材派遣	4,200,000
法定福利費	労働保険・社会保険・雇用保険	600,000
旅 費・交通費	支部出張費・宿泊費・事務局員通勤定期代 他	1,650,000
租税公課	利子税	10,000
活動費	学生諸活動支援・バッジ・ストラップ	150,000
備品維持管理費	メンテナンス及びホームページ改良・コピー機リース（21,824円）	550,000
本部役員会費	年会費（本部副会長5万・常任委員2名各3万・委員3名2万）	170,000
交流費	新年会・他学部支部交際	1,000,000
業務委託費	中間・決算・期末決算	170,000
雑 費	会報取材費・貸金庫代・会報デザイン料 他	250,000
支払手数料	銀行支払手数料など	20,000
退職積立金	事務局員退職金（校友会内規第4章第19条）	300,000
減価償却費		
合 計		19,070,000



皆さん今日は！

平成 29 年度総会返信の近況報告を掲載いたしました。無断で掲載させて頂きましたことお詫びいたします。(順不同)()内は学科卒業年度です。

●岡野眞久(専門部22年度卒)

90才に向けて、まだ頑張っています。つくば研究学園で事業を展開しています。つくば学園都市の発展は素晴らしいスピードで進んでいると感じています。

●山本富三(写真31年度卒)

いまいま83才を迎え、自由にならない面も多く人生振り返りの日々を送っています。アナログ写真を好んでいます。体力負けの感じです。もう3年になりますが小生出版の「今は昔」(文芸社刊写真集)を求めてください。

●神谷典夫(写真38年度卒)

温泉三昧の毎日です。こうした生活が送れるのも日芸写真学科のおかげです。平穏な毎日が送れるよう願っています。

●大高明(写真38年度卒)

写真学科卒業後、50年が経過しましたが未だ写真家として活動しています。まだまだ撮ります！HPは www.expos.jp

●増井伸一(写真47年度卒)

「スタジオ ポートイマジン」という写真スタジオを開きまして30周年を迎えました。まだまだ頑張ります。宜しくお願いします。

●堀内義幸(写真53年度卒)

還暦を過ぎましたが現役として(株)静岡朝日テレビ取締役又、関連の制作会社(株)朝日メディアプレーンの代表取締役社長として奮闘中です！最近、写真にふれる機会はスマホで撮ったものをインスタグラムに上げる位で、カメラは押入れで眠っています。

●二口喜乃(映画30年度卒)

今、6月2日(金)「NPO法人日本ビデオコミュニケーション協会」の第13回通常総会を開催。「映像関連最先端情報の収集」をベースに各研究委

員会は毎月勉強会などで活性化しております。映像産業の進展と映像文化の発展をとるべく広く社会に貢献関与する様活動しております。同期生の金丸幹夫・岩井禧周両君と共に頑張っております。

●清水勝(映画41年度卒)

先々月(4月)、50年振りに江古田キャンパスを訪れました。余りの変りようで、まるで浦島太郎の気分です。

●三宅隆博(映画48年度卒)

卒業9年目に地元(岐阜)にて商業写真スタジオを設立、5年前にデジタル化を期に息子に会社を譲渡。しかし息子は3年前に会社ごと東京に移転現在に至る。東京移転後も有難いことに地元はまだ仕事を発注してくれる企業があり、年1~2回では有るが、東京から息子呼び寄せ時々が家内を助手に仕事をしている。それが大変楽しみである。

●渡辺晓雄(映画H4年度卒)

2015年よりNHK放送技術局制作技術センター音声に勤めております。昨年は大河ドラマ「真田丸」の音声チーフを担当しておりました。今年は来年放送の大河ドラマ「西郷どん」の音声チーフです。同じ部署に撮影1名音声3名の日芸出身がいます。

●松岡義和(美術34年度卒)

80歳(傘寿)になりました。名古屋立大学を退職して10年。今もお非常勤講師をして「芸術学」を教えています。自宅の横に建てた「手作り絵本美術館」は今年で33年。「手作り絵本展」は80回、地域の文化に貢献しています。

●鴉田貢(美術37年度卒)

後期高齢者の仲間になり、趣味の陶芸が以前より作陶時間が少なくなりました。校友会の皆さんのご健勝を念じております。

●高松ゆたか(美術41年度卒)

東北六県の江古田会を組織して「日芸東北江古田展」を発足したい。平面・立体・声・音を含め発表の場をもちたい。青森、盛岡、仙台、秋田…の各県の大きな街で開きたい。今は願望であるが、無理なく進め陽の目を見たいところです。

●富山真理(美術52年度卒)

ライクワークとして、昨年11月、福生アトリエノートにて「ミステリオソ9人展」に参加しました。ライクワークは今年4月に新座市中央図書館から福祉の里図書館へ異動しました。市民農園やベランダで麦を収穫し、今は稲の生長を楽しみながら観察しています。JWの活動は私のライフワークです。

●田中裕子(美術55年度卒)

この4月から、神奈川県立藤沢清流高校美術家の講師に着任しました。充実した設備の工芸室で工芸と陶芸、立体デザイン室で素描実践を教えています。

●松本和子(音楽29年度卒)

音楽教室を主宰、6月21日には、テナーの伴奏並びにソロ演奏、7月には地方のコンクールで審査の仕事、サークルにて地方40人弱の高齢者のコーラスの指導等。都内、地方にてささやかな演奏活動。

●藤田玲子(音楽38年度卒)

今年喜寿をむかえました。近所の医院の保険事務の手伝いをしながら、ピアノを弾いたり、唄ったり、楽しく過ごしています。毎年10月には同期会を行って、皆さんの元気を喜び合っています。学生時代に戻って幸せなひとときです。

●北山和子(音楽42年度卒)

2月に札幌雪まつりに行き、すべて手首を骨折し、金属を入れ只今リ

ハビリ中です。一生懸命指を動かし治りも早いですね、と先生に言われております。ピアノをやっているうちに良かったと思う今日この頃です。

●國方里佳(音楽H9年度卒)

今年の四国二期会のオペラ「扇の的」に葵役で出演します。屋島の源平合戦を題材にしたオペラです。

●原田嘉行(文芸40年度卒)

文化庁長官、日本芸術院長などを歴任され91歳天寿を全うされた三浦朱門先生への追悼文に、映画監督の山本晋也氏が、先生は「俺の人生で一番楽しかったのは江古田時代だな」とおっしゃったと述懐されており、うなずきながら拝読しました。

●渡邊麗子(文芸44年度卒)

産経国際書会(産経新聞社主催)書展の理事長(代行)になりました。今年69歳で書家で巨匠の仲間入ります。書道講師、レクチャー、デモンストラクション、ワークshopなどお声がけください。美術名鑑、卒艦雅号で掲載。

●石川千穂子(文芸52年度卒)

緒方貞子・相馬黒光・小沢征爾・坂本龍一・辻井伸行・山中伸弥など、世界に感動をあたえた日本人の伝記を執筆。それぞれの人の人生の縮図を見た思いがしました。「世界に感動をあたえた日本人」全2巻・評論社より刊行。

●望月昇(文芸55年度卒)

平成28年1月27日に日芸と館山市と「災害時における避難所としての施設利用に関する協定書」を結んでいただきました。OBとしてまた、地元市議会議員として、とてもありがたいと思っております。特に御尽力いただいた庶務課の方々にはとてもお世話になりました。よろしく申し伝えください。ありがとうございます。

●小柳安夫(文芸56年度卒)

会社勤務も35年が過ぎ、母校・芸術学部文芸学科で非常勤講師として教務に携わってからも23年が過ぎま

した。還暦目前にして、若いころ分からなかった人生の味、文学の深さを味わっています。まだまだ鼻たれ小僧ですが、諸先輩のご指導をいただき、さらに精進したいと思います。

●樋口信(演劇35年度卒)

“終活”整理。墓碑外の糸で足跡の一端を小説、文庫本にしました。文芸社刊'17 6/17発売、600円。ご高覧いただければ幸いです。

●小嶋敏彦(演劇37年度卒)

劇団朋友は東京を中心として全国にその活動を広げ大活躍をしています。そして活動を保障する為に常に新しい人材を求めています。ぜひホームページをご覧の上、ご参加下さい。(有)劇団朋友代表 小嶋敏彦

●植村家忠(演劇39年度卒)

県会議員及び地元高取町長として四半世紀を迎えようとしています。来年は後期高齢者になります。そろそろ引き時と思っています。

●網元えり子(演劇50年度卒)

「国立広島原爆死没者追悼平和祈念館」で被爆体験記の朗読をはじめて12年経ちました。「広島平和資料館」の平和講師も4年目になります。広島に生まれ育ち、日芸で演劇を学び40年余。色々な事があつたけれど若い日の自分がまっすぐ今につながっている気がします。皆様どうぞ広島に來られたら朗読を聞いてください。

●宮澤民子(演劇H元年度卒)

ご無沙汰しております。病気のため、昨年3月幼稚園を退職し、同じ園で劇あそびとお話の講師、他に帝京科学大のこども学科で後期の「保育内容『言葉』」の講師を勤めました。おかげ様で今年度から再び保育現場に戻って子どもたちとすごしております。PLAY is PLAY 幼児の世界にも痛感しています。

●町田寿二(放送34年度卒)

市民といっしょになって立ちあげたコミュニティFM放送局は、おか

げ様で来年は15周年を迎えます。日芸の放送の歴史に残る事業だと誇りに思っております。

●大川紀男(放送37年度卒)

郷里で朗読指導の20余年、まだ頑張っています。5月27日は放送学科2期生の同窓会が三笠会館(銀座)で開かれ楽しいひとときを過ごしました。

●宮崎健一(放送47年度卒)

ここ南阿蘇村も熊本地震(2016.4.14&16)から1年が経ちやっと復興の足がかりを得つつあります。皆様のあたたかいご支援に感謝しつつ、前向きに復旧、復興に努めてまいります！ありがとうございます！

●大川原儀明(放送53年度卒)

今年1月に25年間勤務したテレビ局を退職。アナウンサー経験を生かし地元のカルチャーセンターで講師を務めている。

●北原葉子(放送54年度卒)

同期で声優として活躍している小杉十郎太さんの音楽活動のプロデュースを担当しております。昨年10周年記念コンサートの開催とオリジナルアルバム「Natural」の発売をいたしました。

●稲垣進一(デザイン35年度卒)

80歳になりますが現役で仕事を続けています。浮世絵展の企画構成、解説執筆などを続けています。

●山下健司(デザイン41年度卒)

(株)電通を卒業し、12年。現在、電通からの仕事をメインにTUCF、グラフィックデザインのワークをしています。生涯現役ですね。

●沼田晶子(デザイン54年度卒)

60歳になり、きりが良いのでこの3月で専門学校の非常勤講師を離職し、今は自分の工芸教室で大人の生徒さんと楽しくやっております。新しい作品にどしどしチャレンジしていこうと思います。あとになってしまいましたがいつもお世話になっております。

福岡江古田会総会とアート展同時開催

5月13日(土) 於:平和楼天神本店

5月13日(土)平和楼天神本店で、野田学部長、綾部校友会会長を迎えて福岡江古田会の総会を行いました。総会には東京・佐賀・熊本・長崎・山口や日本大学校友会福岡支部などの21名の出席者があり、28年度活動報告・会計報告、29年度活動予定・予算案が可決されました。懇親会では、野田学部長、綾部校友会会長、両名の退任が正式に発表され、今まで江古田会の発展に力を注いできた学部長と校友会会長の名コンビだけに、ビールの泡が消えた思いで、景品交換、自己紹介を行い、二次会でも思ひ出話に華が散りました。また、11日～16日福岡アジア美術館で総会に合わせて開催したアート展も33名の仲間が集い、「これぞプロ、これぞ

アマ」と、個性豊かで、レベルの高い作品で、展示スペースを所狭し埋めてくれました。800人近い来場者からも、見応えがあった、素晴らしい、ベリーグットとお褒め言葉を頂きま

した。総会でも、来年も開催したいと力強い言葉を頂き、アート展を開催して良かったホット胸を撫で下ろすことが出来ました。

会長 飛嶋慶一(写真44卒)



石川江古田会

5月20日(土) 於:ANAホリデイ・イン金沢スカイ

石川江古田会は今年で設立3年目を迎え、第3回総会・懇親会を5月20日、ANAホリデイ・イン金沢スカイで開催しました。前回までは金沢駅前でしたが、今年は趣向を変えて北陸一の繁華街片町にも近い会場です。約20名の会員に参加いただき、再会を喜び合うとともに、地域の芸術文化貢献への誓いを新たにしました。

総会に引き続き行われた懇親会では来賓として木村政司学部長、綾部東洋子校友会会長が出席され、会員と親交を深めました。

木村次長は、教職に就く以前にデザイナーとして石川県ふれあい昆虫館の立ち上げに深く関わり何度も来県された思い出を話され、2年後に迫った新江古田計画の完成とともに石川

江古田会も5周年へ向けて盛り上げていってほしいと激励されました。

綾部会長からも、3周年のお祝いの言葉とともに、5周年への折り返し地点を経て、ぜひ大きなイベント等で日芸を北陸でPRするようご提案をいただきました。

また、懇親会冒頭にて行われた研修会では、会報の編集部員が第3号の取材で能登を訪れた際の裏話やインタビューの様子を動画「いんぎら〜と余話」として上映しました。取材協力いただいた会員らの生の声や風景は好評だったようです。こちらの動画はYouTubeで「石川江古田会」と検索するとチャンネルが表示されます。

最後は恒例の校歌斉唱で締め、来年の再会を期しつつ盛会のうちにお開きとなりました。

幹事 干場文夫(音楽50卒)



宮城江古田会総会

6月3日(土) 於:ピストロ・ヤマライ

平成29年度の宮城江古田会総会は、6月3日(土)仙台市の「ピストロ・ヤマライ」にて、木村政司芸術学部次長、豊島絃武校友会副会長、國分一彦岩手江古田会会長、深松勇校友会宮城県支部長、田邊裕靖通信教育部校友会宮城県支部長をお招きして開催されました。

総会では、平成28年度の活動報告・会計報告、29年度の活動計画・予算が承認されました。今回は、ご当人にとっても、また宮城江古田会の会員皆にとっても大変喜ばしいことがありました。というのは、宮城江古田会創立にご尽力された依田掌初代会長に、校友会からその長年の功勞に対して感謝状が贈られたのです。依田初代会長のご努力から始まった宮城江古田会は、年々を重ね、今年29年目を迎えました。

懇親会では、出席の19人全員が近況について報告しました。その中で中島斉さん(映画S36年度卒)から、

高校時代から半世紀にわたり収集した切手のうち、俳優や映画監督などが描かれた切手を基に「切手で綴る映画100年」を自費出版する話がありました。映画の誕生から現在まで、切手を通して映画人を回顧する内容になるそうです。

この他、学生時代にアルバイトで故永六輔氏のラジオ番組制作に関わった話しや、年相応の病気の話しなど、バラエティーに富んだ話題で、

あっという間の2時間余りでした。

事務局長 酒井健樹(放送52卒)



ふくしま江古田会総会 開催

設立10周年を来年に控え更なる発展を決意

6月3日(土) 於:姑娘飯店

平成29年度の支部総会が6月3日、郡山駅前陣屋の「姑娘飯店」で開催され会員22名が出席した。来賓には学部長代理として松島哲也大学院担当、高松ゆたか校友会常任幹事を始め、日大校友会福島県支部から森支部長が出席しお祝いのことばを頂いた。

挨拶にたった島崎恒夫会長は「来年は設立10周年の節目の年。アート展を中心とする総合日芸祭を計画している」と述べたあと、全国支部長会

議の席上広報紙「超感度」第8号が紙面構成が斬新との評価を受け、会報1等賞を受賞したことを報告、制作に当たった田中聡幹事を讃えた。

次いでこの1年間に鬼籍に入られた4名の方々を偲び、黙禱をもってご冥福を祈った。

この後、吉田公之副会長から「日芸祭」を成功させるために、実行委員会を組織して実施内容を検討したいとの提案があり、了承された。

議事に入り、事業報告、決算報告、

事業計画案、予算案等が承認、可決された。任期満了による役員改選では現執行部が退任の一人を除いて再選され、ひとりを補充した。

続く懇親会では、近況報告で盛り上がり、杯を酌み交わして親交を深めた。

席上、松島大学院担当から学部の最新情報があり、母校の発展に寄与すべく、後輩の確保に務めることを申し合わせた。

支部長 島崎恒夫(映画31卒)

第18回宮崎江古田会総会開催

6月3日(土) 於:杉の子

平成29年6月3日(土曜)第18回宮崎江古田会総会・懇親会が宮崎市のふるさと料理「杉の子」桃太郎の間で開催され、県内より12名県外4名計16名の校友が参加されました。28年度会計報告、事業計画が承認され、総会は無事修了。その後、懇親会に移り、今年9月24日をもって定年任期満了となる野田学部長、6月末で日芸校友

会会長を退任される綾部会長のお二人の退任が発表されました。学部長は12年、会長は9年と長きに渡り本当にいいコンビで今まで江古田会の発展に尽力されたお二人に感謝の意を表したいと思っております。有難うございました。宴も進み恒例の3分間スピーチでは14名それぞれこの1年の思いが語られ3分の間に収まらな

い位盛況でした。恒例となったビンゴゲームが行われ終始大盛況で終了となり二次会も楽しく過ごすことが出来又、次回の再開を楽しみにお開きとなりました。

会長 後藤欣久(美術44卒)



山形江古田会総会

6月10日(土) 於:山形グランドホテル

山々の新緑が輝き、「さくらんぼ」の収穫が始まった山形市で、芸術学部校友会山形県支部(山形江古田会)平成29年度総会を開催しました。

司会進行は、木嶋正英(美・54年度卒)幹事です。来賓として、野田慶人藝術学部長、綾部東洋子藝術学部長、伊藤剛日本大学校友会山形県支部支部長、佐々木敦日本大学山形高等学校経理長(校長代理)の方々をお招きしました。会員13名の参加と

卒業生父母の参加もあり、賑やかに開会しました。来賓祝辞と紹介に続き、事業・会務報告、会計決算報告、監査報告があり承認されました。その後、事業・会務計画案、予算案が承認され、総会は例年通り迅速に閉会しました。

引き続き、同会場で皆さんお待ちかねの懇親会が開会です。日本大学校歌斉唱から始まり、特別企画『声楽とピアノの夕べ』の幕が上がりました。これは、今期で退任する野田学部

長と綾部会長と伊藤支部長へのお礼として、山形江古田会会員からの贈り物です。

ソプラノ佐藤美喜子(音・57年度卒)とピアノ今井友香子(音・H22年度卒)により、ゆったりとした素敵な時間が生まれました。

来賓祝辞と続き、佐々木敦日本大学山形高等学校経理長の乾杯の音頭で懇親会に入りました。世代を超えた「日藝」の強いつながりに「江古

田」の街への思いが重なり、温かい会場になりました。平成年度卒業の会員参加も増えて、楽しく、明るく、元気よく会は進行了しました。時間の速さを感じながら、秋葉覚(文・53年度卒)幹事の「山形花笠締め」で中締め閉会となり、井澤聡(放・62年度卒)幹事長の絶妙な司会により、たいへん盛り上がりながらもちょうど良い時間に収まりました。

今年も又、ほとんどの参加者が二次会へと進みました。そして三次会へ四次会へと、山形の夜は更け、やがて日付は変わってゆきました。

支部長 横倉晋也(美術52卒)



第五回岡山江古田会作品展

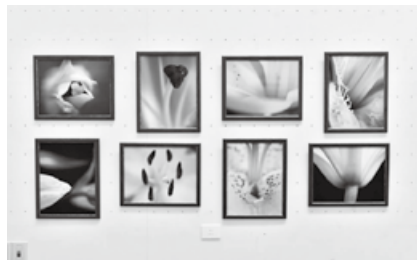
6月27日(火)～7月2日(日) 於:天神山文化プラザ

7月2日にて第五回岡山江古田会作品展は、無事終了いたしました。梅雨空のもとでの会期となりましたが、おかげさまで本年も多くの方にご来場をいただきました。ご来場をいただいた皆様、また、今回ご後援をいただきました山陽新聞社様には、この場をお借りして御礼申し上げます。

誠にありがとうございました。

さて、展示の撤収後には、恒例の懇親会にて、今年の反省と来年に展示に向けた作戦会議を。日本大学芸術学部には芸術系の8つの学科が揃っておりますが、例年、写真の展示が多いので、来年以降はその他の展示も増えれば良いなと思っております。

出展希望の方がいらっしゃいましたら、お気軽にこちらまでご連絡ください。もちろん写真に限らず、絵画、彫刻、映画なんでもOKです。岡山ゆかりの同窓生の皆様のご参加お待ちしております。



野田学部長退任記念・32回目の熊本江古田会総会 7月8日(土) 於:アークホテル熊本城前

32回目の今年の総会は例年の7月第一土曜日から急遽二週目の7月8日に変更して開きました。変更の理由は、7月1日は野田学部長と綾部校友会会長が出席出来ないことが、5月の福岡江古田会で判明したためです。それに、熊本の会員は「野田さん」「綾部さん」お二人とも大好きだったからです。

その総会では今年9月に退任される野田慶人学部長に12年間の感謝と慰労の意味を込めて、熊本城の「復興城主」手形を贈呈しました。

復興城主制度は、昨年4月の熊本地震で大きな被害を受けた熊本城の復

興・再建資金を広く一般から募る制度です。募金(一万円以上)をすると熊本市から「復興城主」手形が交付され、熊本市の観光施設に無料で入場できるなどの特典があります。総会では、奥村前会長から「復興城主」手形を贈られた野田学部長が「ありがとうございました」などと謝意を述べられました。

なお7月1日の本部校友会総会で退

任された綾部東洋子前会長にも「復興城主」手形を郵送で、お贈りしました。

今年の総会には来賓を含め28人が参加し、いつもどおりのにぎやかな会になりました。また、今回は役員改選を行い、会長を穀本(写真・48年卒)が務めることになりました。よろしくお願いします。

会長 穀本純二(写真48卒)



新潟江古田会平成29年度総会

7月15日(土) 於:ANAクラウンプラザホテル新潟

7月15日、新潟江古田会平成29年度総会が新潟市のANAクラウンプラザホテル新潟で開催されました。今回は女性の新メンバーも加わり会員9名、芸術学部からは川上先生、校友会からは田上会長が来県されました。総会では、昨年亡くなられた和田前会長と丸山会員に黙祷をささげ、お二人の人柄を偲びました。懇親会では、川上先生、田上会長から芸術学部の近況や全国の校友会の活動状況などをお聞きし、和やかな会になりました。

これから県内に在住するより多くの会員の皆さんにSNSなども利用して、校友会の活動状況などを知っ

てもらおう、呼びかけを続けるつもりです。

会長 増井伸一(写真48卒)



平成29年度佐賀江古田会総会

7月23日(日) 於:旅館あけぼの

第16回の佐賀江古田祭り(芸術学部校友会佐賀県支部総会)を、7月23日(日)、佐賀市の旅館あけぼので行いました。

今回が最後となる野田学部長に出席いただけなかったのが残念でしたが、綾部校友会会長、熊本江古田会の奥村会長と川村さん、福岡江古田会の飛島会長、鹿児島江古田会の羽山さん、そして10名の会員が集まり賑やかに開催することが出来ました。

今年は、「佐賀江古田会」と名称を変更して20年。まだ名称のない校友会時代時の懐かしい写真を見ながら、思い出話で盛り上がりました。そして総会のメは音成さんの「佐賀に

わか」。今年は20周年ということで特に力が入り、小話から昭和のスターの物真似までたっぷりと披露いただき、全員大爆笑。今回が、会長としては最後の参加となる綾部会長、熊本の奥村会長も「やっぱり、佐賀は音成さんのにわか」と、満足頂きました。

最後に、佐賀をはじめ全国の江古田会が発展できたのも、野田学部長、綾部校友会会長のコンビがあればこそと、ささやかではありましたが、永年の御苦労に感謝の心を籠め、記念品(佐賀と言えば焼き物。ということ有田焼)を贈らせていただきました(野田学部長には、鹿児島江古田会総会の席上、音成さんから贈呈)。改めて野田学部長、綾

部校友会会長にお礼を申し上げます。

総会後の二次会は、夫婦で初参加となった原田さん(親子二代音楽卒・奥様は東京出身)のお店に直行。久しぶりの再会に暑さも吹き飛び、遅くまでお付き合いいただきました。

猛暑の中、参加していただきました皆様、ありがとうございました。七夕の夜のごとく、年に1回しか会えない方もいっしょにいますが、久しぶりに元気なお顔を拝見するだけでも、この会の素晴らしさを噛みしめています。

また来年お待ちします。

事務局長 土井 洋(写49卒)



第22回日本大学芸術学部校友会 北海道江古田会総会

7月29日(土) 於:札幌 東急REIホテル

平成29年度の北海道江古田会総会・懇親会が、7月29日(土)午後6時から、札幌 東急REIホテルにおいて、会員、来賓、合わせて24名が出席して盛大に開催されました。

芸術学部からは、田上竣詞校友会会長、野田慶人学部長をはじめ、道内日大の各支部長の出席をいただきました。

総会では、氏家支部長が挨拶した後、牧議長のもと、総会が進められ、大神事務局長より諸案が説明され、満場一致で承認されました。

成田フォトサービスの記念写真撮影の後、昨年に続き、56年音楽学科



入学の山上淳子幹事の総合司会により、懇親会が始まりました。

来賓挨拶では、田上会長より校友会の会長に就任したいきさつなど、校友会の現状について、野田学部長からは、将来、芸術学部の全員が江古田に集結する状況の説明など、今後の取り組み等について、お話をいただきました。

札幌日本大学学園理事長の浅井徹様の乾杯で、宴会が始まりました。

今年は、めずらしく芸術的なステージは、行われず、ひたすら話に盛り上がりを見せました。

ビンゴゲームでは、高額商品券や、ニッポンハムセットなど豪華景品に加え、札幌テレビ放送グッズ、北海道テレビグッズ、また、今年も出席できませんでしたが、函館湯の川プリンスホテルの河内孝善幹事から、景品が届くなど、最高の盛り上がりの中、

宴会が行われました。

また、毎年評価の高い、素晴らしい校歌斉唱も披露されました。

楽しい時間は、瞬く間に過ぎ、日本大学校友会札幌支部長の、加藤欽也様の締め乾杯で、お開きとなりました。

年々、高齢化が進む中、また来年、元気で皆様と再会できることを祈っています。

会長 氏家曹一(放送52卒)

長野江古田会

9月2日(土) 於:長野市

平成29年9月2日に、長野市にて長野江古田会を開催しました。いくつかのご報告に加え、長野江古田会では、今年から来年にかけ、会員同士の交流の機会を設けたいと考え、忘年会などを企画していくことを提案、承認していただきました。今後、定期的に開催していく、このような会は、会員同士の活動報告、告知、人材募集など、さまざまな情報交換の場となることを目標といたします。また、開催のお知らせは、郵便だけでなく、

フェイスブックなどを通し発信してまいりたいと考えております。また、今回も初参加のメンバーがおりました。新たな出会いに感謝しながら、活動を少しずつでも広げて行けたらと考えております。

総会後には芸術学部からは野田学部長に、校友会からは佐々木副会長にご参加いただき、懇親会を開催いたしました。つきない話に、いつでもどこでも、年齢が違っていても、一度集まれば江古田の雰囲気になる、い

い仲間の輪を大切にしていきたいと思った良い夜でした。

長野江古田会では、今後とも多くの皆様のご参加をお待ちしております。

事務局 松沢 彩(放送H16卒)



江古田会各支部連絡表

各江古田支部に
ご在住の校友の皆さん

各支部では参加者を募っておりますので是非皆様のご連絡をお待ちしております。

支部名	名 前	卒業学科年度	連絡先
北海道江古田会	氏家 曹一	放送 52 年度卒	090-3468-6657
青森江古田会	高木 保	演劇 32 年度卒	0177-77-7708
秋田江古田会	仙北屋 昭弘	音楽 54 年度卒	090-2954-2283
岩手江古田会	佐藤 剛	演劇 53 年度卒	0197-25-5497
宮城江古田会	桑折 洋一	放送 55 年度卒	090-3752-8833
山形江古田会	横倉 晋也	美術 52 年度卒	023-631-8040
新潟江古田会	増井 伸一	写真 48 年度卒	025-233-3910
福島江古田会	島崎 恒夫	映画 31 年度卒	024-935-5410
長野江古田会	三浦 博之	放送 49 年度卒	0263-46-2583
愛知江古田会	藤田 勝	演劇 H9 年度卒	090-1783-5103
石川江古田会	干場 文夫	音楽 50 年度卒	090-6273-4982
岡山江古田会	藤井 一也	文芸 53 年度卒	090-3177-0334
福岡江古田会	飛嶋 慶一	写真 44 年度卒	090-6953-5543
佐賀江古田会	光野 忠利	映画 40 年度卒	090-9659-0952
熊本江古田会	穀本 純二	写真 48 年度卒	090-2712-3820
宮崎江古田会	米倉 史朗	写真 52 年度卒	090-1080-8082
鹿児島江古田会	堀之内 隆	放送 49 年度卒	090-3739-7374

海外江古田会として台湾江古田会、韓国江古田会、中国江古田会があります。

学科ニュース

写真ブロック



●今年度から「写真技術Ⅳ(サイエンスフォト)」を穴吹有希専任講師(H18年度卒)が新たに開講しました。授業時間を増やすほどの人気科目となりました。

●今年度から「写真特別講座Ⅱ」として毎週異なる先生により写真についての授業をしていただくオムニバス授業を開講しました。前期に授業をしていただいた先生は、鹿野貴司講師、原田雅章講師(H5年度卒)、石川直樹講師、田附勝講師、清水哲朗講師、今城純講師(H11年度卒)、榎並悦子講師、高砂淳二講師、三村漢講師、藤村大介講師、村上悠太講師(H20年度卒)〔講義日程順〕の11名です。様々な角度から夫々の写真観をお話頂き、刺激的な授業となりました。

●上野公園を中心に開催されたT3 PHOTO FESTIVAL TOKYO(5月19日～28日、Tokyo Institute of Photography主催)の美術系の大学および専門学校9校から約70名が参加した「写真やアートを学ぶ学生のポートフォリオ展」(5月20日、21日、東京藝術大学美術学部中央棟)に公募による学科内のポートフォリオ審査で選ばれた3年生の小原茉莉、酒巻祐花、高橋なつみ、長谷川健太、林田瑞穂、山田凌、4年の金成津、渡邊浩史(五十音順)が参加しました。金成津は日本大学の代表として作品のプレゼンテーション企画にも参加しました。

●「写真機材展」を江古田校舎東棟2

階の学生ホール、写真講義室等で7月19日、20日に開催しました。メーカー23社の参加がありました。昨年に引き続きインクジェットペーパーのメーカーがペーパーの紹介や即売もして下さいました。19日には写真集の古本市も催されました。さらに恒例の掘り出し市、籤による写真関係のグッズが当たる企画も催され、多くの学生で賑わいました。本年は少人数ではありましたが卒業生の来場も見られました。次回はぜひご来場ください。

●高校生のためのワークショップを7月16日、17日に開催しました。銀塩コースでは、撮影、ネガ現像、プリントまでの工程を経験しました。デジタルコースは、スタジオでのポートレート撮影、そのデータおよび持参したデータの画像処理を行い、作品をカラーや白黒でプリントしました。

また夏休み期間中には、埼玉県高等学校文化連盟写真専門部初心者研修会(8月5日)、茨城県高等学校文化連盟写真部会指導技術研究協議会(8月25日、26日)、埼玉県立芸術総合高等学校学外学修(8月28日～31日)も行いました。秋には、千葉県高等学校文化連盟写真専門部会撮影会・写真教室(10月8日)を開催予定です。

●写真甲子園(7月24日～30日)および2017年東川町国際写真フェスティバル(メイン会期7月25日～30日)をバックアップしました。

●7月25日～8月30日、キトウシ森林公園家族旅行村物産センター2階ギャラリーで、7月28日～8月7日、東川サロン(モンベル大雪ひがしかわ店2階)で東京工芸大学芸術学部写真学科との合同企画で写真甲子園のサテライト企画の一つとして写真展「暁-AKATSUKI-」を今年も開催し

ました。出品者は、2年生の小池洋子、3年生の中島大吾、深津春平、水野敦史、宮有里奈、山田凌、4年生の市毛奈津子、金成津、渡邊浩史(五十音順)です。

●所沢市教育委員会社会教育課からの依頼により8月5日に所沢校舎で、2017子ども大学とところざわ第2回講座「光とあそぼう!～手づくり写真をつくろう～」を実施しました。100人を超える申し込みがあり、大勢の小学生がサイアノ写真を制作しました。

●10月17日～23日に「出て来い新人6ー日本大学芸術学部写真学科気鋭学生写真展」をニコンプラザ新宿THEGALLERY2で開催します。出品者は4年生の薄井悠介、村田はるか、3年生の岩下響、乙川和矢、松井友輝、丸夏実、丸喜翔太、水野敦史、山田凌(五十音順)です。

●10月31日～12月1日に「オリジナルプリント展 異邦人の眼」を芸術資料館で開催します。詳細は芸術学部ホームページをご覧ください。会期中の11月3日～5日は芸術祭です。学生の写真も併せてご覧いただけます。ご来校をお待ちしております。

●11月下旬に池袋WACCA1階STAGEで「NICHIGEI PHOTO in WACCA 2017」を開催します。今回は「ワッカ・つながり」というテーマで公募により選考された学生の作品を展示します。ワッカとの共同企画で、来館者による投票を行い、最多得票者には来年初旬にWACCA4階GALLERYで個展を開催できるという特典がつきました。ぜひワッカまで足を運び、投票して頂きたいと思います。

●直近情報等は写真学科公式Facebook/Twitterで発信しておりますのでご活用ください。

映画ブロック



●「フォーカスイン'2017」

平成27年度卒業制作、映画演出Ⅲ/映画技術Ⅲによる作品上映会「フォーカスイン'2017」が、6月18日～23日までの6日間、江古田校舎東棟EB-2教室で行なわれました。55作品が上映され、700名あまりが来場し盛況のうちに幕を閉じました。

●平成29年度オープンキャンパス

今年度のオープンキャンパスは平成29年6月25日(日)に江古田校舎で行なわれました。映画学科では、学科説明、映画学科施設見学ツアー、映像表現・理論コースの説明会、卒業制作や映画演出Ⅲ/技術Ⅲの実習作品上映会、進学相談を行い、多くの受験生が来校しました。

美術ブロック



■版17展 越境する版表現Ⅳ

会期:9月25日(月)～10月6日(金)

会場:INOAC銀座並木通りギャラリー(銀座)
INOAC銀座並木通りギャラリーにて笹井祐子教授、五島三子男(S46年度卒)のグループ展が開催されます。

■日本版画協会 第85回記念版画展

会期:10月7日(土)～10月22日(日)

会場:東京都美術館(上野)
有地好登教授、松下サトル講師、宮崎文子講師、卒業生多数出品の版画展が開催されます。

■創業90周年記念 第44回日動展

会期:10月12日(木)～26日(木)

会場:日動画廊(銀座)
櫻井孝美客員教授、福島唯史教授、設楽俊元助手等が出品します。

■江古田ユニバース2017

会期:10月28日(土)～11月5日(日)

会場:江古田駅自転車駐車場

(インフォメーションセンター)

江古田駅周辺の各会場にて音楽や映像・ダンス公演などを含めた美術展覧会が開催されます。

■第70回記念立軌展

会期:10月31日(火)～11月8日(水)

会場:東京都美術館(上野)

大庭英治教授、福島唯史教授、設楽俊元助手等が出品します。

■高校生自画像デッサンコンクール展

会期:10月31日(火)～11月11日(土)

会場:A&Dギャラリー(江古田校舎)
日本大学付属高等学校の学生による自画像デッサン展が開催されます。

■彫刻の五・七・五

-かたちで詠む春夏秋冬-

会期:11月8日(水)～11月28日(火)

会場:女子美アートミュージアム

EJoshihi SPECE1900

世界各国の大学26校が参加する彫刻展覧会が開催されます。日本大学芸術学部からは美術学科彫刻コースの教員と学生が参加します。

■版画の彩展2017

第42回全国大学版画展

会期:12月2日(土)～12月17日(日)

会場:町田市立国際版画美術館(町田)
町田市立国際版画美術館にて版画専攻学生の版画展が開催されます。

■アニメート展

会期:12月7日(木)～12月16日(土)

会場:ギャラリー ARK(横浜)
笹井祐子教授、卒業生多数出品のグループ展が開催されます。

■土日会展

会期:12月13日(水)～12月25日(月)

会場:国立新美術館

櫻井孝美客員教授をはじめ、卒業・修了生が出品します。

■第56回ミニヨン展

会期:12月中

会場:日動画廊(銀座)
櫻井孝美客員教授、福島唯史教授、設楽俊元助手等が出品します。

■新進芸術家選抜展 FAUSS

会期:1月13日(土)～1月21日(日)

会場:アーツ千代田3331
大山智子助手が出品します。

■版17クロアチア展

会期:1月下旬～

会場:MLU Museum Osijek(クロアチア)
笹井祐子教授、五島三子男(S46年度卒)のグループ展が開催されます。

■第2回3つの個性

会期:1月下旬～

会場:ギャラリー・サロンドエス(銀座)
福島唯史教授が出品する3人展が開催されます。

■日芸版画卒業制作展

会期:1月29日(月)～2月3日(土)

会場:ギャラリー川船(銀座)
版画専攻の卒業制作展が開催されます。

■第4回構成と色彩展

会期:2月5日(月)～2月19日(月)

会場:埼玉画廊(川口)
福島唯史教授、大山智子助手、設楽俊元助手等が出品します。

■第6回央展

会期:2月11日(日)～17日(土)

会場:ギャラリームサシ(銀座)
大庭英治教授、福島唯史教授等が出品します。

音楽ブロック



平成29年度音楽学科主催演奏会は、次の通りです。いずれも入場無料ですので、お気軽にご来場ください。

●第122回定期演奏会

於：練馬文化センター小ホール

10月11日(水)

17時30分開場／18時00分開演

<出演者>

ピアノ 独奏：平原晨太郎

ピアノ 独奏：堀健太

ピアノ 独奏：芦川崇人

ソプラノ独唱：福田万由香

バリトン独唱：山本一樹

フルート独奏：渡邊詩乃

サクソフォーン独奏：飛田真瑠見

トランペット独奏：富岡哲郎

ヴァイオリン独奏：恒吉泰侑

サクソフォーン独奏：小熊祥太

フルート独奏：井上実月

ソプラノ独唱：土井野理央

ソプラノ独唱：木村弥素子

作品発表：尾方凜斗

ピアノ 独奏：小針侑也

ピアノ 独奏：川上実李

●第123回定期演奏会

於：練馬文化センター大ホール

10月30日(月)

18時00分開場／18時30分開演

<演奏曲目>

モーツァルト/ピアノ協奏曲 第21番

ハ長調(ピアノ独奏：石村頼史)
ダヴィッド/トロンボーン小協奏曲 変
ホ長調(トロンボーン独奏：高橋茉佑)
ベッリーニ/歌劇「夢遊病の女」より
“気もはればれと”(ソプラノ独唱：竹
内京花)
イベール/フルート協奏曲(フルート
独奏：阿部美幸)
シューマン/ピアノ協奏曲 イ短調
(ピアノ独奏：松島聖響)

○指揮 今泉久

○管弦楽 日本大学芸術学部管弦楽団

●第46回ピアノコンサート

於：練馬文化センター小ホール

11月13日(月)

15時00分開場／15時30分開演

本学ピアノコースの学生による選抜
演奏会です。

●第48回オペラ公演

於：練馬文化センター小ホール

11月15日(水)

18時00分開場／18時30分開演

<演奏曲目>

歌劇「Cosi fan tutte」(ハイライト)

○指揮 江上孝則

○演出 岩田達宗

●第29回ウインドオーケストラ定期 演奏会

於：練馬文化センター大ホール

11月22日(水)

18時30分開場／19時00分開演

<演奏曲目>

リード/エル・カミーノ・レアル

ベルリオーズ/幻想交響曲 第4楽章

断頭台への行進

ベルリオーズ/幻想交響曲 第5楽章

魔女の夜宴の夢 他

○指揮 稲川榮一

○演奏 日本大学芸術学部ウインド
オーケストラ

●第124回定期演奏会

於：東京芸術劇場コンサートホール

12月7日(木)

18時00分開場／19時00分開演

<演奏曲目>

ブラームス/ヴァイオリン協奏曲
(ヴァイオリン独奏：三浦章宏)

フランク/詩篇150篇

ブルックナー/詩篇150篇(ソプラノ独
唱：苅込紗樹)

プロコフィエフ/バレエ音楽「ロメオ
とジュリエット」より抜粋

○指揮 矢崎彦太郎

○管弦楽 日本大学芸術学部管弦楽
団

○合唱 日本大学芸術学部音楽学科
合唱団

●第38回新作室内楽の会

於：芸術学部音楽小ホール

12月16日(土)

16時30分開場／17時00分開演

提出作品より選抜された演奏会です。

●第45回ファカルティコンサート

於：芸術学部音楽小ホール

1月13日(土)

17時30分開場／18時00分開演

音楽学科の教員による演奏会です。

●第53回室内楽の夕べ

於：北とぴあつつじホール

1月29日(月)

17時30分開場／18時00分開演

10月末に行われる室内楽演奏会にお
いて、優秀であった団体による演奏会
です。

文芸ブロック



■文芸4年の黒澤麗さんが全作家文 学賞佳作受賞

文芸学科4年生の黒澤麗さんが「If
じゃない決意」で、第12回全作家文学
賞佳作を受賞しました。

受賞作品は、季刊雑誌「全作家」第106
号(平成29年6月30日発行)に掲載され

ています。

■「第28回伊藤園お〜いお茶新俳句 大賞」に文芸学科生が大量入賞!

「第28回伊藤園お〜いお茶新俳句大
賞」には、過去最多の187万3,374句の
応募があり、18名の文芸学科在学
生の作品が入賞しました。

演劇ブロック



■後期実習発表のご案内

2017年度後期の舞台発表が下記の通り行われます。いずれも入場無料ですが、要予約となっております。お申込・お問合わせは演劇学科HPまで。
会場は▽江古田校舎・中ホール▽所沢

校舎アートセンター・ブラックボックス
▽総合実習ⅢB『Modern Dance Performance～ロンド・カノン形式による創作～』10月6日(金)、7日(土)
▼総合実習ⅠA『夏の砂の上』10月12日(木)～14日(土)
▼総合実習ⅠD『僕の東京日記』10月26日(木)～28日(土)
▼総合実習ⅠB『Modern Dance Performance～シンメトリー形式による創作～』11月10日(金)、11日(土)
▽卒業制作(演劇)『人形の家』(仮) 11

月17日(金)～19日(日)
▽総合実習ⅡC 作品未定 11月24日(金)、25日(土)
▽卒業制作(日舞)『四記創想』(仮) 12月2日(土)、3日(日)
▽卒業制作(洋舞)『Modern Dance Performance～自由形式による創作～』12月9日(土)、10日(日)
▼総合実習ⅠC『花さき山』(仮) 12月16日(土)
▽総合実習ⅢA『アンチゴーン』(仮) 12月21日(木)～23日(土)

放送ブロック



■「バス旅スト」放送学科制作のラジオ番組がオンエア開始!

2017年10月1日から、毎週日曜日の12:00～12:25分、放送学科制作のラジオ番組「バス旅スト」が、TOKYO FM/JFN全国38局ネットワークで放送されます。

元札幌テレビのアナウンサー森中慎也教授が、バスの旅を愛する人々「バス旅スト」を紹介しながら、バス旅の楽しさや豆知識、旅先の情報、旅を彩る音楽などをレクチャーしていく番組です。毎週日本全国のバス路線を取材し、そこで出会うバス旅ならではの「音」を聴きながら番組は走り続けます。バスのお話をもりもりする森中教

授、番組では「バスもり!教授」として活躍していきます。聴くほどにバス旅が大好きになる、そんな番組です。

番組提供はウェルネット株式会社(本社:東京都千代田区)。昨年よりスマホによる日本全国の高速バス検索・予約・購入ができるアプリ「バスもり!」をリリースし、全国の高速バス・路線バスをITで次々とつなげています。

さらにこの番組は、ウェルネット社・日本大学芸術学部・FM東京による画期的な産学共同研究により制作していきます。これからの放送コンテンツ制作を目指す若者たちが集う日本大学芸術学部という場にチャンスを提供していきたい、というウェルネット社の思いからこのプロジェクトは生まれました。番組の企画構成、取材、演出はもとより、出演者も含め、日本大学芸術学部の教職員、OB及び在学生を中心に、FM東京と共同で番組制作を行っていきます。

ぜひ一度お聞きください!

■中学生のための「情報番組制作ワークショップ」

練馬区と放送学科が共同で実施している情報教育推進事業“中学生のための「情報番組制作ワークショップ」が今年も開催されました。

第8回目の今回は、練馬区在住の中学生21名が集まり、鈴木康弘教授の指導のもと6月24日から7月31日に渡って行われました。

このワークショップは、企画立案から番組完成までの一連の作業を中学生が実践的に取り組むことで、メディア・リテラシーを学ぶことを目的としています。最終日の7月31日にはV1スタジオで収録が行われ30分の情報番組を制作しました。

8月1日には、完成した番組の上映会と鈴木教授の講演が行われ、参加した中学生だけではなく、多くの一般の方々も聴講されました。

デザインブロック



今回も在学生と卒業生の活躍をお届けします。

■ANBD東京展2017にて学生グループが出版

グラフィックデザイン夏期集中プロジェクトにて、2年生と3年生の学

生2団体がANBD2017 東京展に作品発表をしました。この展覧会は、東アジアのデザイナー、作家、学生の作品450点ほどを展示するというものに加え、約30団体の個人、団体が個展、グループ展をするというもの。2年生は、「Dream and Reality」というタイトルでインスタレーション。3年生は、「A typical moment」というタイトルで平面と映像作品を展示しました。

ANBD東京展2017(アジア・ネットワーク・ビヨンド・デザイン展)

場所:東京工芸大学 中野キャンパス
期間:9月9日(土)～18日(月・祝)
10:00-18:00

■Young Stars (釜山国際広告祭 学生部門)に参加

釜山国際広告祭(Ad Stars)は60カ国以上から1万点を超えるプロが制作した広告、デザインのコンペティションです。この中に学生部門(Young Stars)があり、デザイン学科学生有志(文芸学科学生含む)の3グループが選ばれ参加しました。

学生部門のコンペティションには世界各国から11カ国、42チーム、118名が参加。コンペのテーマは「釜山海運台にある海上ケーブルカーに乗車するお客のリピーターを増やすアイデアを考える」というもの。現地で出題され、2日間でプレゼンテーションするための作品を発表するというもの。惜しくも入賞は出来ませんでした。海外の学生と一緒にコンペを経験するという良い勉強になりました。

■JAGDA学生グランプリ2017にて入選

日本グラフィックデザイナー協会が主催する「JAGDA学生グランプリ2017」にて、本学学生の清野はるみさんと三浦菜々夏さん(ともにデザイン学科3年)の2名が入選しました。※応募総数 1,178作品(累計 1,614枚)

また入賞・入選作品(129作品)を展示する展覧会が、下記のとおり開催されました。

場所:東京ミッドタウン・デザインハブ
期間:8月25日(金)～9月18日(月・祝)
■DSA 日本空間デザイン賞 2017にて入選

DSA 日本空間デザイン賞 2017にて小島百恵さん(2016年度卒業生)の作品が入選しました。

昨年2016年、デザイン特別講座(武藤淳先生)の和光ディスプレイプロジェクトに参加。

「Fresh Bridal」という作品で昨年5月19日～6月1日の期間中に銀座和光4丁目和光のウィンドウディスプレイを彩りました。

■銀座・和光 ジューンブライドディスプレイ

デザイン学科の学生が銀座・和光のディスプレイのデザインを手がけました。今回は6月、ジューンブライドディスプレイです。花嫁が花婿の胸に飛び込む瞬間をドレスの裾部分に「ミルクラウン」を組み合わせてあります。ほんの一瞬にしか見られない幸せ

の瞬間を甘くhappyに表現しました。
デザイン:金子遙さん、津田智美さん(デザイン学科4年)

テーマ:幸せの瞬間

場所:銀座和光4丁目1階ウィンドウ
期間:6月22日(木)～7月11日(火)

■2000年卒業生(IDコース)日端奈奈子さんが 講談社出版文化賞「さしえ賞」を受賞

イラストレーターとして書籍の表紙を中心に活躍中の卒業生・日端奈奈子さん(2000年IDコース卒)が「太陽にふれる月」(大村 友貴美 作/「小説すばる」)と「水際の子魚」(窪 美澄 作/「小説現代」)に掲載されたイラストで評価され、講談社出版文化賞「さしえ賞」を受賞しました。

この賞は広く出版文化の向上に寄与した、漫画、ノンフィクション、エッセイ、科学出版、さしえ、写真、ブックデザイン、絵本の各分野の優れた作品に与えられるものです。

第42回土日会展

絵画作品を公募しています

OB・現役生の作品をおまちしています

会 期 2017年12月13日～12月25日
会 場 国立新美術館1F展示室
搬 入 12月1日(金) 10:00
出 品 日芸美術科院生～OB60名強
問合せ 土日会事務局
0422-48-1007 T&F
気軽にどうぞ
事務局 三浦裕之

総会のご案内

(株)スタジオ・マイ▶1973年設立。ビジュアルから立体に至る、デザイン全般を受け持つ。

(株)スピーチ・バルーン▶1985年、スタジオ・マイの出版部門として発足。2018年は石ノ森章太郎先生生誕80周年。プレイベントとして宮城・ふるさと記念館にて「ガールズ コミック ヒストリー展」を開催。

一世を風靡した少女漫画家たちの原画、複製原画に会えます!

【会期:10月28日(土)～2018年1月28日(日)】

☎03-5999-6911

design:スタジオ・マイ

編 集 後 記

8月の終わりにこの後記をしたためています。先日の朝早く、北朝鮮のミサイルが日本上空を通過して大騒ぎになりましたが、テレビ東京はミサイルに屈せず「けものフレンズ」の再放送を敢行しました。こういう形で示す意志もありだと思うのです。

(青木)

8つのアート1つのハート



日本大学芸術学部

日本大学芸術学部校友会報・第99号

2017年秋季号●平成29年10月発行●

●編集人 会報編集委員会

●発行人 田上竣詞

●広報担当 西垣仁美 鳥山正晴 笹井祐子
川上 央 青木敬士 原 一平
茅原良平 長瀬浩明

●発行所 日本大学芸術学部校友会
東京都練馬区旭丘 2-42-1
日本大学芸術学部内
電話 (03) 3554-5363
事務担当 星野 祥子

●印刷所 江戸クリエート株式会社
東京都文京区本郷 3-43-16
コア本郷ビル
電話 03-3814-1225

非売品

不許可転載

●表 紙

氏名: 鶴巻貴子
タイトル: 『ROUGE et...』、制作年: 2015年
イメージサイズ: 62.0cm x 45.5cm、
技法: 銅版画/カーボラダム・ドライポイント
・スピット/ホワイト・手彩色
修了年: 2005年3月

2018年度一般入学試験A方式〈第1期〉・〈第2期〉日程

I 一般入学試験A方式〈第1期〉諸日程 (募集人員349名)

学科及び募集人員	出願受付締切期日		試験期日	試験場	合格発表日時	入学手続締切期日
	郵送(必着)	窓口受付				
写真 (35) 美術(2月6・7日試験) (14)	1月30日(火)	1月29日(月) ・30日(火) のみ 窓口受付	2月6・7日(火・水)	芸術学部 江古田校舎	2月15日(木) 13:00	2月28日(水)
音楽 (38)			2月6・7・8日(火・水・木)		一次 2月8日(木) 14:00 二次 2月15日(木) 13:00	
演劇 (43)			一次 2月6日(火) 二次 2月9日(金)		2月15日(木) 13:00	
放送 (59)	2月6日(火)	2月5・6日 (月・火)のみ 窓口受付	2月6・7日(火・水)			3月7日(水)
映画 (72) 美術(2月13・14日試験) (14)			2月13・14日(火・水)		2月22日(木) 13:00	
文芸 (44)			2月13日(火)			
デザイン (30)			2月13・14日(火・水)			

- ※ 一般入学試験A方式に関する〈第1期〉各期日はすべて2018年のものとします。
- ※ 出願受付開始期日は2018年1月5日(金)、一般入学試験〈第1期〉の入学手続きは二段階手続方式が可能。
二段階方式の最終入学手続期限は2018年3月12日(月)とします。
- ※ 放送学科以外の各学科は一次・二次の区分なく全受験生に対して行います。放送学科の二次試験は一次試験合格者のみ行います。
- ※ 1月29・30日、2月5・6日(いずれも月・火)のみ、日本大学入試センターの窓口にて出願受付を行います。
(受付時間＝10:00～16:00)

II 一般入学試験A方式〈第2期〉諸日程 (募集人員75名)

学科及び募集人員	出 願 受 付 締 切 期 日		試 験 期 日	試験場	合 格 発 表 日 時	入学手続締切期日
	郵送(必着)	窓口受付				
写真 (5)	全学科 2月27日(火)	2月26日(月) ・27日(火) のみ 窓口受付	3月6日(火)	芸術学部 江古田校舎	3月15日(木) 13:00	3月26日(月)
映画 (10)						
美術 (3)			3月6・7日(火・水)			
音楽 (4)						
文芸 (15)			3月6日(火)		一次 3月8日(木) 14:00 二次 3月15日(木) 13:00	
演劇 (10)			3月6・7日(火・水)			
放送 (20)			一次 3月6日(火) 二次 3月9日(金)			
デザイン (8)					3月6・7日(火・水)	

- ※ 一般入学試験に関するA方式〈第2期〉各期日はすべて2018年のものとします。
- ※ 出願受付開始期日は2018年1月5日(金)、入学手続期限は2018年3月26日(月)とします。
- ※ 一般入学試験〈第2期〉に関しては一括での手続きとします。
- ※ 放送学科以外の各学科は一次・二次の区分なく全受験生に対して行います。放送学科の二次試験は一次試験合格者のみ行います。
- ※ 2月26・27日(月・火)のみ、日本大学入試センターの窓口にて出願受付を行います。(受付時間＝10:00～16:00)

◎ 上記入学試験の他、一般入学試験N方式〈第1期〉を実施します。

詳細については、芸術学部ホームページ (<http://www.art.nihon-u.ac.jp>) を確認してください。